大会報告

第15回品質工学技術戦略研究発表大会実施報告(2)

RQES2022A実行委員会

2022年11月18日（金）に，第15回品質工学技術戦略研究発表大会が「ITとの結合で進化する品質工学―新しい品質工学を考える―」の大会テーマの下で開催された。後半のパネルディスカッションの詳細を報告する。

【パネルディスカッション】

テーマ：

企業の社会貢献活動から未来の品質工学を考える

パネリスト：

（招待講演）　安達範久　マツダ(株)
　　吉田　亮　統計数理研究所
（研究発表）　久保祐貴　マツダ(株)
　　西野眞司　日産自動車(株)
　　畠山　鎮　YKK(株)
司　　会：衛藤洋仁　いすゞ自動車(株)

司会(衛藤)：皆さん，今からパネルディスカッションを始めます。本日は研究発表3名と招待講演2名の計5名の方に参加していただきます。パネル討論のテーマは，「企業の社会貢献活動から未来の品質工学を考える」というものです。大会テーマの「ITとの結合で進化する品質工学へ」の副題の「新しい品質工学を考える」をクローズアップし，討論を進めていきたいと思います。また，今年の春の大会で，品質工学会30周年記念公演で椿会長から「社会課題に応える品質工学の役割」というご講演をいただき，社会課題に対する品質工学の役割についても考えていきたいと思います。品質工学に限らず，企業や各団体は，社会課題に対応することが求められています。この点についても，話を進めていただければと思います。

まずは，本日の流れを説明します。パネリストの方々に改めて自己紹介をしていただきます。パネル討論の前に伝えたいことがあれば，ここでお話してください。次に，各企業の社会貢献活動において品質工学が果たす役割について，皆様にお話しいただきます。品質工学がもたらす効果や，課題や障壁についても議論を進めていきます。特に，マツダさんからは，実務者や経営者の視点でのご意見をお聞きしたいと思います。一方，統計数理研究所の吉田先生のところでは，品質工学をまだ活用していませんが，社会貢献に対する期待やこれまでの活動についてお話しいただけると幸いです。

現状の整理ができたら，未来社会における社会貢献の形や品質工学への期待について，皆様と考えていきたいと思います。将来を見据えつつ，品質工学の進化についても議論を深め，明るい希望のある形で最後にまとめたいと考えています。

さっそく，各企業の社会貢献活動について話し合いたいと思います。（予稿集に掲載した図を参照しながら）社会貢献の形を，木の光合成に例えて漫画的に表現しました。田口先生が提示した技術戦略の中で，テーマ選択，評価手法，ツールの用意，コンセプトの創造を幹とした軸となる戦略があり，企業はそれを基盤に，木の葉や果実のように，企業活動によってさまざまな事例を積み重ねていきます。そして，CAPDoを回し，新しい領域や社会貢献につながるようになるというイメージです。木の周りは社会を表し，椿会長の講演で紹介された「社会課題解決の情報循環に資する学術」という図から言葉を借りています。これを映し出しますので，話し合いのきっかけになればと思います。